

2022年5月社長会見

2022年5月18日

1. 営業・輸送概況

2. 鉄道のある暮らし 鉄道×オフィス=新ワークスタイルの提案

3. JR西日本グループの技術を活用した課題解決への挑戦

詳細

1. 営業・輸送概況

【運輸取扱収入（速報値）】

収入ですが、4月はコロナ前の2019年比で69.1%、5月は14日までで74.6%です。

運輸取扱収入（速報値）

	前年同月比			
	収入計	近距離券	中長距離券	定期券
4月	141.1% (69.1%)	146.7% (83.3%)	170.0% (57.6%)	110.7% (85.0%)
5月(5/1~14)	190.8% (74.6%)	219.0% (84.8%)	231.5% (68.7%)	119.3% (81.6%)

※実績は直営の速報値。駅などでの取扱高(消費税を含む)を示すものであり、旅行会社での発売分などを除きます。
※ () 内は、コロナ前の2019年同月比。

【新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）】

ご利用状況は、山陽新幹線は、4月が2019年比で55%、5月が14日までで66%。近畿圏は、4月が85%、5月が87%です。

今年は、3年ぶりに行動制限がないゴールデンウィークということで、ゴールデンウィーク期間中の山陽新幹線は、コロナ前の2018年比で79%までご利用が回復しました。

まだまだ新型コロナウイルスの収束は見通せない状況ですが、ご利用の更なる回復を期待しています。

新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）

	前年同月比			
	山陽新幹線	北陸新幹線	在来線特急	近畿圏
4月	170% (55%)	164% (54%)	166% (43%)	143% (85%)
5月(5/1~14)	272% (66%)	260% (71%)	276% (55%)	214% (87%)

※実績は速報値。近畿圏は近距離券発売実績の前年同月比。
※ () 内は、コロナ前の2019年同月比。

＜株主総会、組織改正＞

来る6月23日、第35回定時株主総会を開催いたします。コロナ感染症の不安が依然ぬぐえない中ではございますが、感染症対策に万全を期し、議事も簡潔なものとした上で、開催いたします。

今回の株主総会に上程する議案は、昨日、開示したところですが、

- ①コーポレート・ガバナンスの更なる強化や迅速な意思決定を企図した「監査等委員会設置会社」への移行に向けた定款変更
 - ②今後の経営課題や新しい機関設計に対応した役員体制
 - ③新たな株式報酬制度の導入
- など多岐にわたります。

いずれも、今後の当社グループの変革・復興、企業価値向上に向けて、必要な議案を株主の皆様にお諮りするものであります。

また、先日、お知らせさせていただきましたが、コーポレート部門を再編する組織改正を、6月1日付で実施いたします。

グループ全体のビジョン、経営戦略の策定、資源配分、ステークホルダーコミュニケーション機能を再編成した「経営戦略本部」を設置するとともに、地域価値、線区価値、事業価値の向上に向け、鉄道整備・まちづくり・地域連携が一体となった戦略をグループ全体で推進する「地域まちづくり本部」などを新たに設置いたします。

これまで以上に、経営単位ごとに戦略の議論を充実させ、自律的な意思決定のスピードアップとリスクマネジメントの充実により、グループ全体の安全と成長を実現してまいります。

2. 鉄道のある暮らし 鉄道×オフィス=新ワークスタイルの提案

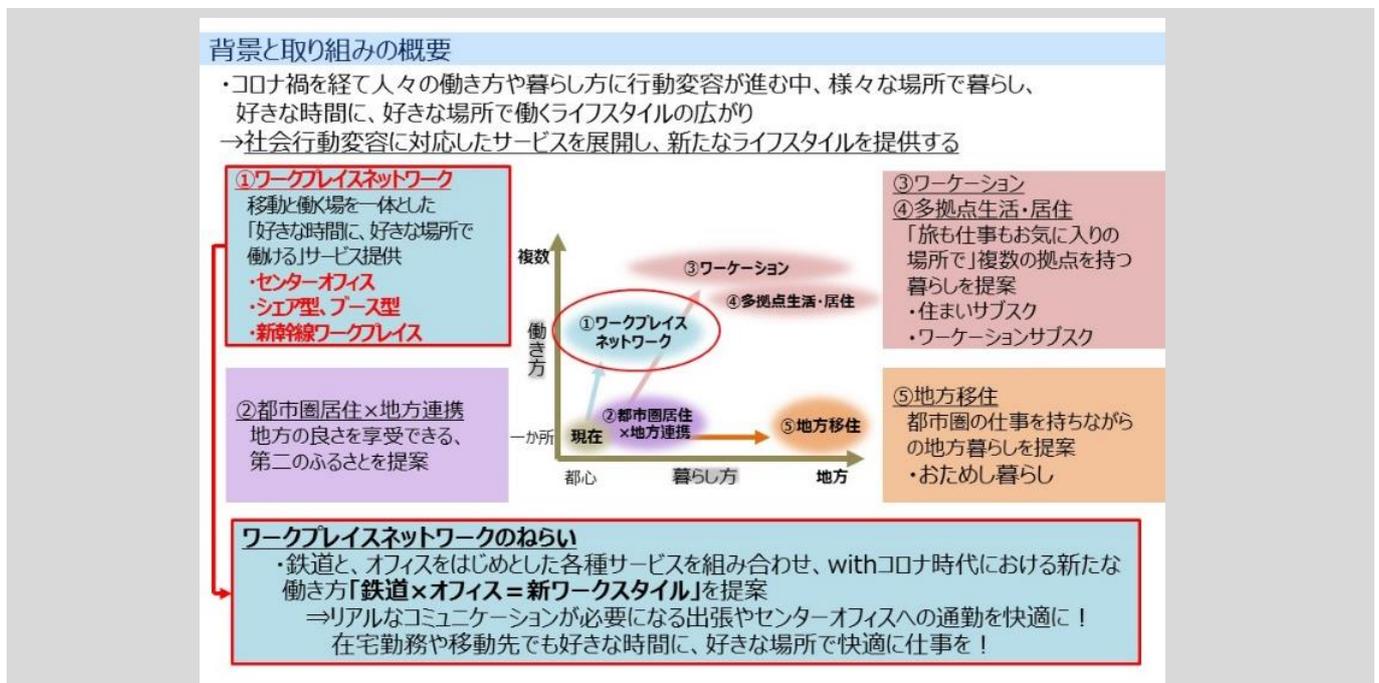
【背景と取り組みの概要】

これまで、地方移住を応援する「おためし暮らし」や、複数拠点の暮らしをサポートする「住まい・ワーケーションサブスク」など、ライフスタイルの広がりに対応した様々な働き方を提案し、試行してまいりました。

また、今回お示しする「ワークプレイスネットワーク」につきましても、シェア型のオフィスやブース型のオフィスなど、出張先や移動中に仕事ができるビジネス拠点として、27カ所を整備してきました。

さらにこの度、新大阪にセンターオフィスとして位置づける2つのオフィスビルが完成し、「ワークプレイスネットワーク」の各コンテンツが揃ってまいりました。

これにより、鉄道とオフィスを組み合わせた、ウィズコロナ時代の新たなワークスタイルをご提案します。



【新ワークスタイルのご利用イメージと今後の展開】

当社はこれまで、京阪神エリアを中心に「Work PLACE COCOLO」などシェアオフィスを展開してきたほか、JR東日本様と連携した駅ナカの「STATION BOOTH」の整備、JR東海様と連携した新幹線「S Work車両」の導入など、「好きな時間に、好きな場所で働ける場」を提供するべく努めてまいりました。

これらをご活用いただくことにより、駅ナカのブース型オフィスや、移動中の車内、移動先のシェア型オフィスで、スキマ時間に気兼ねなく仕事をするなど、場所や時間に捉われない働き方を実現することができると考えています。

このように、移動動線上に広がる多様なワークプレイスをフレキシブルに組み合わせてご利用いただくことで、働く場を選ばない、活発な移動需要を創出していきます。

京都・広島・小倉など5駅に、「STATION BOOTH」を新たに整備するなど、他社様との連携を積極的に進め、今後ともワークプレイスを多拠点に展開してまいります。

新ワークスタイルのご利用イメージと今後の展開



ワークプレイスの整備状況（2022年5月時点）

センターオフィス	2拠点（新大阪第2・第3 NKビル）
シェア型ワークプレイス	8拠点（「Work PLACE COCOLO」、「DISCOVERY coworking」、「YADORIGI」）
ブース型ワークプレイス	8拠点（STATION BOOTH、テレキューブ）
ホテルを活用したワークプレイス	11拠点（ホテルグランヴィア、ホテルヴィスキオ、ヴィアイン）
新幹線ワークプレイス	山陽新幹線「S Work車両」「S Wi-Fi for Biz」「ビジネスブース」、北陸新幹線「新幹線オフィス車両」

- ⇒ 「STATION BOOTH」を京都・長岡京・神戸・広島・小倉の5駅に新たに整備
 ・他社との連携を積極的に進め、ワークプレイスを多拠点に展開していく

【JR西日本の移動生活ナビアプリ「WESTER」を通じた「移動×働き方」の実現】

さらに、来年春を目途に、これら多様なワークプレイスを、ワンアプリで予約できる機能を、WESTERに付加する準備も進めており、詳細が固まり次第、改めてご案内をさせていただきます。

JR西日本の移動生活ナビアプリ「WESTER」を通じた「移動×働き方」の実現

お客様の移動動線上に広がる多様なワークプレイスの手配をワンアプリで！

便利な経路検索などの移動サポート機能やお得なクーポン・キャンペーンの提供に加え、移動動線上のワークプレイスの確保をWESTERで実現。

“好きな時間に、好きな場所で働ける”を実現！

【新大阪センターオフィスにおける「鉄道×オフィス＝新ワークスタイル」の提案】

なお、今回、新大阪のセンターオフィスに入居いただく企業様を対象に、出張時のグリーン車や、通勤時の新快速「Aシート」、一部の特急列車のほか、シェアオフィス「Work PLACE COCOLO」を、6か月間、特別料金でご利用いただけるキャンペーンを実施いたします。

新大阪センターオフィスにおける「鉄道×オフィス＝新ワークスタイル」の提案

新大阪第2NKビル、第3NKビルの入居企業に対し、鉄道利用特典、シェアオフィス利用特典等を提供し、「鉄道×オフィス＝新ワークスタイル」の世界観を体験いただけます。

対象者：新大阪第2、第3NKビルに入居される企業の従業員

実施期間：2022年6月以降、6か月間

- 特典：①出張時、普通車指定席料金でグリーン車利用
(当社管内完結のご利用)
②通勤時のAシート及び一部の特急列車利用料金割引
③小倉駅・博多駅設置のプレミアムルーム利用
④シェアオフィス「Work PLACE COCOLO」利用料20%OFF
⑤「出張たび※」の初期設定費用及び利用料割引

※ 株式会社日本旅行が提供する法人向けオンラインチケット予約システム



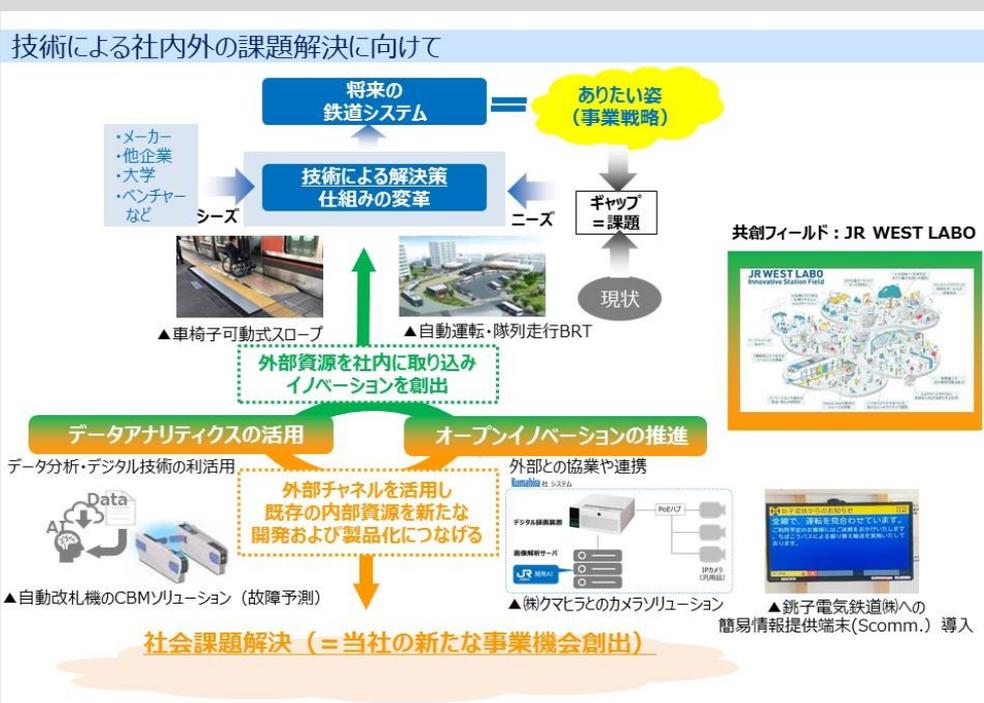
3. JR西日本グループの技術を活用した課題解決への挑戦

【技術による社内外の課題解決に向けて】

当社グループは、将来の鉄道システム構築に向けて、技術による課題解決を図るべく、オープンイノベーション活動を加速させており、当社のデータ分析力等を活用し、様々な事業者様と協力しながら、社内外の課題解決に挑戦しております。

昨年度は、他社への技術紹介を進める中で、「自動改札機CBM」のように実証実験に進んだ事例や、「簡易情報提供端末（Scomm.）」のように本格導入に至った事例など、社外展開の芽も出てきた1年でした。

今年度も、新たな実証実験や、本格導入に至る事例を積み重ねて、技術をフックとした価値創造に向けた飛躍の1年としたいと考えております。



【社会課題解決に資する技術開発事例（鉄道技術展・大阪2022への出展）】

技術による課題解決への挑戦は、JR西日本グループ一体となって進めており、5月25日からインテックス大阪にて開催される「鉄道技術展・大阪2022」におきまして、約170件の技術開発アイテムを出展いたします。

ここで、代表的な出展アイテムを数点ご紹介いたします。車内で発生した人の悲鳴・騒ぎ・救助音声などを自動的に検知し、異常事態とその発生場所をいち早く乗務員に通知する「車内異常音検知システム」は、広く社内外の安全・安心に役立てていただける技術であると考えています。

また、「顔認証改札」や、ビーコンを活用し、お客様の目的地や進行方向を個別にご案内する「デジタル可変案内」、お客様がご自身のスマートフォンを活用して、完全非接触で行き先を問い合わせ、確認できる「スマホAI案内システム」を実機として体験していただけます。

このほか、「自動改札機CBM」、「AI画像解析」、「スマホによる振動解析」など、当社データサイエンティストが開発したデータソリューションについてもご紹介いたします。

また、このたび、当社グループのコーポレートベンチャーキャピタルである「JR西日本イノベーションズ」に対して、20億円の増資を実施いたしました。今後も、スタートアップへの出資なども通じて、オープンイノベーションを推進し、技術開発や新規事業の創出につなげていきたいと考えています。

多くの方々に、グループの持つ技術の可能性を感じていただき、様々なご意見を頂戴しながら、引き続き、グループ一体となった、技術開発による社内外の課題解決をさらに加速してまいります。

社会課題解決に資する技術開発事例（鉄道技術展・大阪2022への出展）

■主な出展アイテム（約170アイテム）

- ・「車内異常音検知システム」（安全・安心ソリューション）
- ・「デジタル可変案内」「スマホAI案内※」「顔認証改札」（未来駅・JR WEST LABO）
- ・「自動改札機CBM」「AI画像解析」「スマホによる振動解析」など（データソリューション）

※国土交通省鉄道局鉄道技術開発費補助金の交付有



当社データサイエンティストによるデータソリューション



▲自動改札機CBM



▲AI画像解析



▲スマホによる振動解析



▲JR西日本グループ出展ブース（イメージ）

技術による社内外の課題解決をさらに加速